

夏休み

子どもたちにとっては自然に触れ合える絶好の季節です。登山やキャンプ、海水浴などのほかにも、最近ではエコツーリズムと呼ばれる生きもの観察や田舎暮らし体験、植林などのボランティアなどを行うツアーも多く見られるようになってきました。

身近な自然を学ぼう！



わざわざ遠くまで行かなくても、びわ湖や川、里山など、私たちの身近にも学ぶことのできる自然はたくさんあります。



エコツーリズムって？

地域の自然や歴史文化を体験し、学ぶとともに、それらを保全していく観光のあり方を言います。国では、「自然環境への配慮」「観光振興への寄与」「地域振興への寄与」「環境教育への活用」を基本理念に、エコツーリズムを進めています。

のこなどの体験学習が行われています。また、地域で環境保全を進めている市民ボランティアの協力のもと、里山や森での自然体験やホタル学習のほか、びわ湖へ植栽するヨシの苗づくりを行っている学校もあります。

それ以外にも、コミセンや市民活動団体が学習会を多数実施されています。市では広報やホームページを通じて、このような自然体験型の環境学習情報を発信していますので、ぜひご活用ください。



大篠原周辺の里山で自然遊びをしよう

日時：8月17日 午前9時集合

(午後3時頃解散) 少雨決行

場所：大篠原旧林道沿いの森

(国道8号、村田製作所の信号

から山に向かって光善寺川沿い

を上流へ。信号から案内板あり)

対象：子ども対象ですが、大人

も大歓迎。定員30人(小学生未

満は保護者同伴要)

内容：午前/竹や木でコップ

やお箸をつくろう 昼食は、み

んなでバーベキューをしよう。

午後/尾根を歩いて、野洲の

景色を眺めよう(そんなに高い

ところではありません) ネイ

チャーゲーム(カモフラ

ージュ/自然でないものが隠れて

いるよ ビンゴゲーム/自然の

中から五感を使って見つけよう)

きれいな川の砂で遊ぶよ

トンボやサワガニもいるよ

持ち物：長袖のシャツ、長ズボ

ン、帽子、運動靴、タオル、水

筒、虫除け対策

参加費：1人300円(保険・食料)

申し込み：8月6日

までに農林水産課 587-

6004



毎月第4土曜は 廃食油回収の日

8月28日 午前10時~午後1時

回収会場：市役所別館(旧コミセンやす)横電話ボックス付近

回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村 586 - 1441

今年も「緑のカーテン」で 省エネ実施中！

市では、環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」の協力のもと、市役所庁舎をはじめ9つの公共施設で、省エネを目的に緑のカーテンを実施しています。ぜひ、皆さんの家庭でも、家計にもやさしい省エネに取り組んでみてください！

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(71)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【8月の休館日】月曜・火曜日

テーマ展「古瓦と大壁造建物」/ 8月29日 まで
六条薬師堂遺跡など古代寺院跡の古瓦や、光相寺遺跡の大壁造建物を紹介

第2回ふおれすとフォトギャラリー(弥生の森写真展)
/ 8月29日 まで 作品も募集中

鑄造体験! アクセサリーを作ろう/ 8月7日 午後2時~4時 対象...小学校高学年以上、先着20人/参加費...500円/申し込み...電話にて同博物館

弥生の森の夏まつり/ 8月21日 午前9時~正午(小雨決行) 主催...博物館友の会

人権・平和学習講演会「戦時下の地域社会と民衆」
/ 8月22日 午後2時~4時 講師...松田隆行さん(花園大学文学部准教授)/参加費...無料/申し込み...当日受付

館内燻蒸に伴う臨時休館/ 9月1日 ~3日

資料の燻蒸(殺虫作業)を希望する人は事前にご相談ください。大きさや内容によっては受け入れできない場合があります。搬入、搬出は所有者が行ってください。

古代の「大壁造建物」とその柱材

歴史民俗博物館では、今月の29日までテーマ展「古瓦と大壁造建物」を開催しています。

大壁造建物は、建物の外側に支柱の柱材を見せることなく、壁土を塗り込める壁建の構造をとります。近世の土蔵のような建物が、大壁造建物のイメージに近いと考えられます。

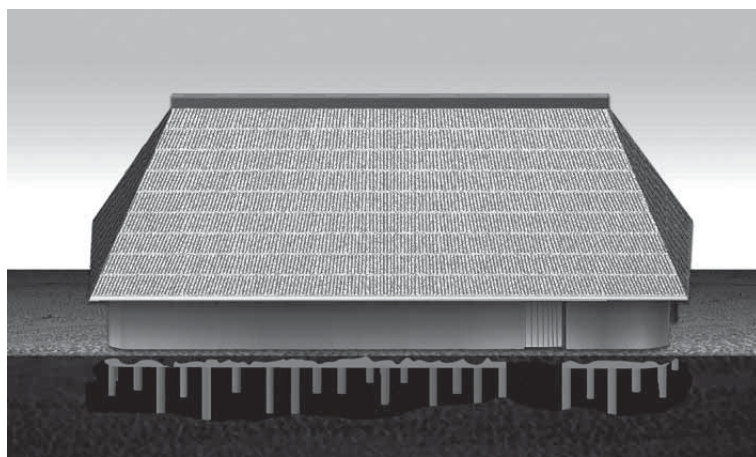
採用する大壁造建物は、5世紀から7世紀の間に造られ、全国で100例近く検出されています。その分布範囲は、九州地方から中部地方にまでおよびますが、過半数が天津市北郊において検出されています。天津市穴太から錦織周辺にかけて集住していたのは、百済系の渡来人です。そのほか滋賀県内では、野洲市、多賀町、愛荘町、旧高月町(現・

長浜市)で同様の大壁造建物遺構が検出されています。

野洲市吉地の光相寺遺跡で発見された大壁造建物は、7世紀中期から後半に廃絶した建物跡で、表土下70cmから検出されました。建物の形状は長辺82m、短辺67mの長方形で床面積は44・3㎡(13坪)ですが、建物の南東辺が間仕切りの柱列となり、南東方向に反転するような形で拡張す

る長屋のような建物が想定できます。建物の平面形は、長方形に巡る布掘溝(幅約1m、深さ50~80cm)を設けて、その中に柱材33本を配置します。柱材は、地下に埋もれている基礎の根入れの長い主柱とその横に短い間柱という具合に並び据えられ、建物のコーナー部分には柱材が据えられていない特殊な構造となっています。

布掘溝内に残る柱材は、すべてヒノキ材で50~80cmの間隔で据えられており、柱と柱



大壁造建物復元イメージ



大壁造建物跡

の間が非常に接近した状態です。出土したヒノキ材は、直径25~30cmと非常に太く、長さ是最長173cm、平均は123cmです。通常は地下に埋もれた木材は腐って残りにくく、白鳳時代の柱材が良好な状態で出土したことは、極めて稀な事例と言えます。

吉地周辺のこれまでの発掘調査では、大壁造建物はこの一棟のみしか検出されていません。この大壁造建物の付近には、当時の一般的な掘立柱建物が発見されるだけで、特に変わった建物が見られる訳ではありません。どのような目的でこの建物が建てられたかは、遺物から推測することはできませんが、この一棟だけが集落の中で際立っていたことでしょう。

(博物館学芸員 徳網克己)